東北大学附属図書館報
木這子
BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

漱石文庫の整理にたづさわって（2）
書簡について

情報サービス課閲覧第二掛長　湯　本　智　子

漱石文庫の中でもこれまで出版物や研究者によって紹介されていなかった，漱石研究資料としては二次的ともいえる資料を紹介するという主旨の下に前号より拙文の掲載を始めたが，本号では数少ない書簡類を紹介したい。漱石文庫の中に収蔵される書簡は，下記の5点である。

1. 博士号辞退事件に関連する文部省よりの一連の公文書　3通
2. 正岡子規の関甲子郎宛書簡　封書1通と葉書1通
3. 漱石の手帳に挿入されていた小宮豊隆の漱石宛書簡　葉書4通
4. 雑辺資料中に収納されていた太田祐三郎の漱石宛書簡　葉書1通
5. 蔵書中に挿入されていた皆川正禧の漱石宛書簡　葉書1通（前号で紹介）

文庫の性質からいって漱石自筆の書簡が収蔵されていないことは，当然のことである。しかし，漱石と親交のあった土井晩翠宛の漱石自筆の書簡2通が晩翠文庫の中に発見されている。その中の漱石の自画像入り葉書は，展示会図録や出版物にも紹介されており，もう1通の封書は軸装され貴重書金庫に保管されている。

ここでは，これまであまり知られていない正岡子規と本学の図書館長でもあった小宮豊隆の漱石宛の書簡を紹介したいと思う。

正岡子規の関甲子郎宛書簡

子規は本名を正岡常規といい，明治19年9月から20年7月まで第一高等中学校（東京大学予備門改め）予科第2級の一之組に在籍しており，同じく二之組に在籍していた関甲子郎宛（明治20年6月6日付）に次のような葉書を出している。子規21歳の時である。

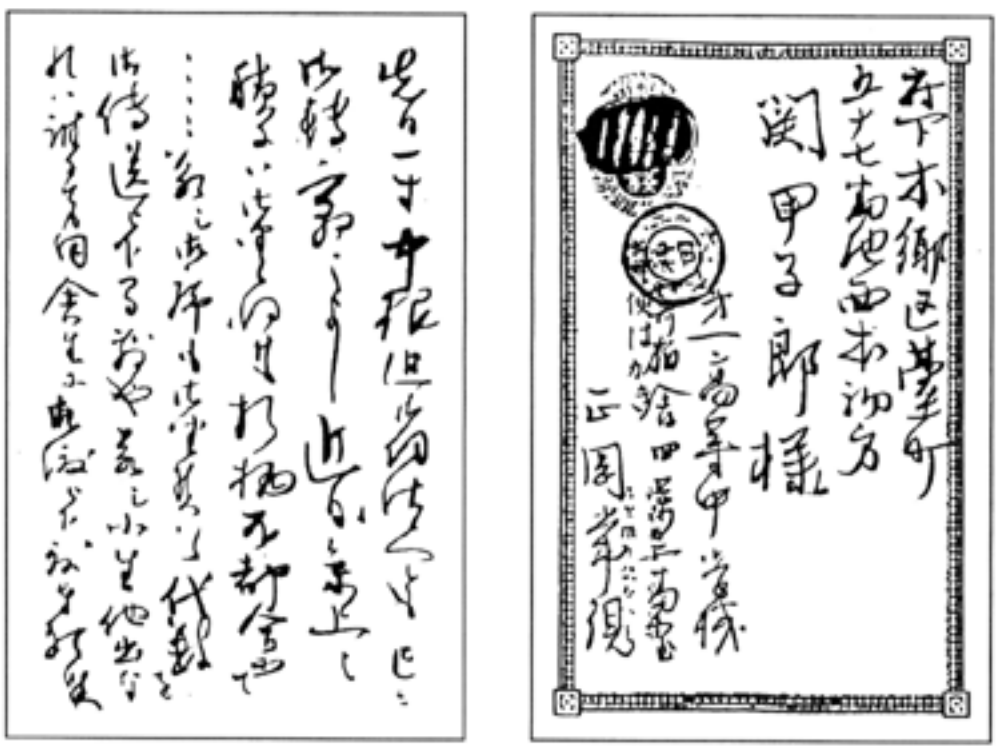

図1　正岡子規書簡・関甲子郎宛（明治20年6月6日付）

「先日一寸，中根迄御伺仕候ども，すでに御転寓のよし，近日参上の積には御座候得共折柄不都合にて…若し御序（おついで）も御座候ば代数を御傳送下され間敷（まじく）や　若し小生他出なれば誰にても同舎生に御渡し下され度願い奉る」

代数とは，予科第二，三級の受講科目で恐らく数学の苦手だった子規が代数の参考書のようなものを是非とも借用したかったようである。このことは，次の書簡からも伺い知ることが出来る。

（封筒の表）本郷臺町　関甲子郎君　貴酬
（封筒の裏）高等中学校内正岡常規　特鼻揮
「御手紙拝見致候　さて御申越の金員に付てハ小生も少々困却仕候へども丁度寄宿料の持合せ御座候間　御用達申候　しかし併此金ハ本月二十日か又ハ二十一日の中に是非とも拂ハなけりゃアならぬ金にて若シ一日にてもおくれ候へば直様停學の都合故御無心にハ御座候へとも願ハくハ十九日中に御返却奉願候　大試験前代数も少々入用故乍憚（はばかりながら）其節御持参の程奉願上候　　謹言
甲子郎　様　　常規
金二円慥ニ入れ置き貴价へ相渡申候」

この書簡は，図１の子規の葉書に対して関からの来信でしかも金の無心に対する，返事である。封筒は受信した関甲子郎が粗雑に開封した為に，消印が欠けているので日付が不明である。講談社「子規全集」によると，大試験前という記述から推定して明治20年６月の初旬頃ではないかと注解されている。ここでも代数の件に対して再度の依頼をしている。漱石は明治17年東京大学予備門予科に子規と同時に入学しているので接点はあるのだが，この頃は丁度病気で試験を受けられず留年していたので，子規と漱石の運命的な直接の出合いはこれより２年後となる。「学生時代の試験問題」の中でも，特に95点とか92点という優秀な漱石の代数答案を見ると，子規がこの頃すでに漱石と親交があったら当然このような会話や書簡が交じわされたであろうかと想像する。この書簡の中で面白いのは，真面目な文体の調子を変えて「払ハなけりゃアならぬ金にて…」と金の督促を照れて表現していることや，封筒の裏に「特鼻揮」という表現を使う子規の面目躍如たるところである。又，自分自身も数日後に納期限が迫っている寄宿料を払う為の金を友人に用立てるという，明治時代の学生の一蓮托生的な親交振りが伺える。しかも，６月６日以降の借金に対して同月の20日頃まで返却するという遺繰りが可能なのだろうかという驚きと当時の学生の自転車操業的な生活も伺える。ちなみに関甲子郎なる人物は，岩手県出身で子規によると「七変人」の一人ということになっており，夭折した。

子規の２通の書簡は，漱石の雑辺資料中に収蔵されていたものであるが何故漱石が入手していたのか，或いは漱石没後に関係資料として収集されたのか記録はなく不明である。子規が漱石に宛てた書簡は，二人の親交の深さからして当然多数あるのだが，漱石文庫には全く存在していない。漱石文庫の中で唯一子規と漱石を結び得る資料としては，子規が講評した漱石の俳句稿「子規点句稿」と漱石が批評を載せている子規の自筆文集「七艸集」と漱石への子規の献辞が記されている蔵書「獺祭書屋俳話」（だっさいしょおくはいわ・漱石文庫No.1156）の３点である。図２の書簡については，講談社の「正岡子規全集・書簡」に翻刻されており，本学でも貴重な資料として，軸装して保管している。

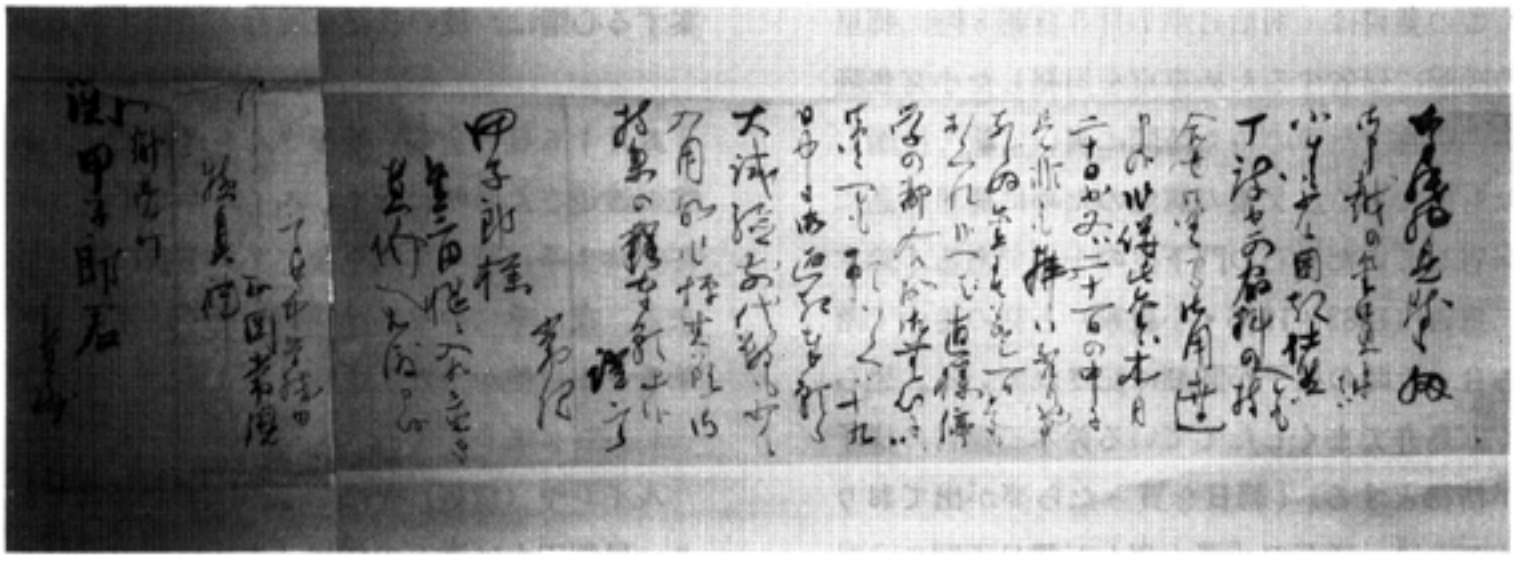

図2　正岡子規書簡・関甲子郎宛（明治20年6月初旬頃か）

小宮豊隆の漱石宛書簡

小宮豊隆（1884～1966）は東京帝國大学文科大学講師を務めていた漱石の教え子で，門下生として終生漱石と深い師弟関係にあった。漱石の没後は大正13年より昭和21年まで東北帝國大学法文学部ドイツ文学の教授として来仙し，その間第五代図書館長も歴任した。

小宮豊隆は，漱石の日記によると相当数の手紙を漱石宛に書いているのだが，豊隆が23才の時の4通の葉書だけが，明治40～41年の漱石の手帳（漱石文庫・手帳No.5）のポケットに挿入されていた。彼自身の日記（岩波書店・漱石全集別巻に掲載）と併行して読むと大変興味深いし，漱石との師弟関係だけでなく，夏目家との関わりがより明白になる。明治41年7月26日付で小倉より3通連続した葉書には次のような事が書かれてある。

1枚目の葉書

「（今夜八時にかえり着き候）

一，小倉より一筆啓上　大垣にて三重吉に電報をかけ申候。廣嶋についてみれば三重吉先生ワイシャツを着て桃色ネクタイを結び白靴をはいて上から久留米絣の単衣をひっかけおるに一驚を喫し申候。佐世保の友人のところに行くことにして，ゆうべから一生懸命に，用意をしたんだと言い言い，私の傍に腰をかけ申候。発車の間近になって洋服屋の小僧がかけつけて御注文の洋服がやっと出来ましたと云って届け」

2枚目の葉書

「二，…にまいり候，三重吉は何とか云って怒鳴りつけ居申候。期日までに出来る筈のが出来ないから，今日の間にあはなければ，フイにしてやるんだと洋服屋の主人に昨夜強談致したる由に候。三重吉と美事なる皮の大カバンを背負ひ込ませ申候。これにも又恐れをなしたる次第に御座候。朝日を買ったら夢が出ており申候。三重吉と一所によみ申候。昨年も丁度」

3枚目の葉書

「（おばあさんはどうしているかと思い候）

三，汽車の中で虞美人草の第一回を拝読致し申候。多少の因縁と存じ候。三重吉と当所にてわかれ申候。淋むしく候。もう三十分ばかりまたねばならず候。夕立はげしく一寸痛快にも存じ候へども夏の旅行に洋服は禁物にて御座候。暑くて暑くてやり切れ申さず候。東京にて新たらしくつけたダブルカラーが脂汗のお陰でベロベロになり申候。廣嶋でつけかえ申候。」

この葉書は，明治41年7月5日朝8時に郷里の福岡に帰省するため東京を出発した小宮豊隆が，小倉で汽車の待ち時間に書いて駅で投函したものである。父親の病気のために郷里広島に帰省していた漱石の門下生の一人である，鈴木三重吉（1882～1936・小説家）と旅の途中で落ち合った時の様子が詳細に記されている。恐らく広島弁でまくしたてている鈴木三重吉の様子が彷彿とする。「朝日を買ったら夢が出ており…」とは，漱石の「夢十夜」が朝日新聞に7月から8月にかけて連載されたことを指している。又，この帰省から東京へ戻る車中ではやはり朝日新聞に連載されていた「三四郎」の第1回を読むのである。このことを彼は日記の中で次のように感想を述べている。

「九月二日（水曜）　郷里出発。汽車の中で「三四郎」を読む。なんだか自分の事が書いてある様な気がする。

九月三日（木曜）　尾の道に朝つく。…「三四郎」の中に「京都郡」とあるので驚く。これから先が気がかりである。…」

福岡県京都郡は彼の郷里なので，自分が「三四郎」のモデルなのではと感じている様子が伺える。

4枚目の葉書は，8月7日付で郷里から次のように書いている。

「例のお嬢さんの話が早く承り度候。筆子さんのお出来まだなほらない由　御心配の御事と奉存候。印行を鼠にかじられて，梯子をかけて，天井に上がった男が居り申候。そして鼠を目がけておっかけまわる中　天井から落ちてこしをうちたる由，こんな話は田舎にかぎり申候。」

例のお嬢さんの話とは，縁談の事を意味しているように思われる。「筆子さん」とは漱石の当時10歳の長女で，「お出来」が出来た筆子を案ずる心情は，彼の日記を読むと納得できる。

「五月十五日（金曜）筆子さんを連れて大学病院の渡辺さんの所に行く。ルイレキなんださうだ。弥生亭に行って飯を食べて，下宿に連れて来る。夜，車にのせて早稲田へ行く。車の上で筆子さんは抱かつたまま寝てしまふ。」

ルイレキ（瘰癧）とは頸部淋巴腺の腫腸であり，早稲田とは漱石の住居「牛込早稲田南町」のことである。子供の病院ゆきを依頼される程の信頼を得ていた彼と夏目家との深いつながりが伺える。小宮豊隆の葉書は，特に急を要するものでもなく，内容的に特に意味のあるものではないことから，漱石の周辺を一時でも離れた彼が手紙で語りかけたいという漱石への思慕のようなものさえ感じられる。

これらの4通の葉書が入っていた漱石の手帳には，いわゆる断片のみでこの来信のことや葉書の背景にある事柄についての関連情報は全く記されていない。必ずしも漱石の手によってなされたとは断定出来ないが，読んですぐ手帳のポケット（裏表紙に付いている）に葉書を入れたので，これらの書簡は誰の目にも触れず無事本学に来たことになるのであろうか。このポケットには，漱石の手によって書かれた断片が二つに折りたたんで挿入されていた。

漱石の日記には，実にさまざまな人脈からのほとんど毎日といってよい程の来信の記録があるのだが，漱石文庫にはそれらの書簡が全く収蔵されていない。漱石の没後，遺族や門下生によって書簡類は然るべく整理されたのであろうが，漱石の日記帳や手帳と共に並行して書簡を読むことが可能だったら，本学の漱石文庫はさらに奥深く魅力のあるものになっていたかもしれない。

研究者とは異なる視点から素朴な感想と共に紹介したこれらの書簡は，子規の書簡1通を除

いてほとんど知られていない。だが，こうして熟読してみると当時のゆったりとした時代背景や行間にそこはかとなく漂っている人間性のようなものが伝わってくる。軸装にした書簡を除て，葉書は「漱石文庫自筆資料目録 No.21・書簡，印刷物」として保管しており既に35mm カラーフィルムでの撮影も完了した。

今後も，漱石文庫の中のいわゆる隠れたともいうべき資料又はその整理にたづさわる者しか知り得ないような事柄等を，微力ながら少しづつ紹介してゆきたいと思う次第である。

（ゆもと・ともこ）

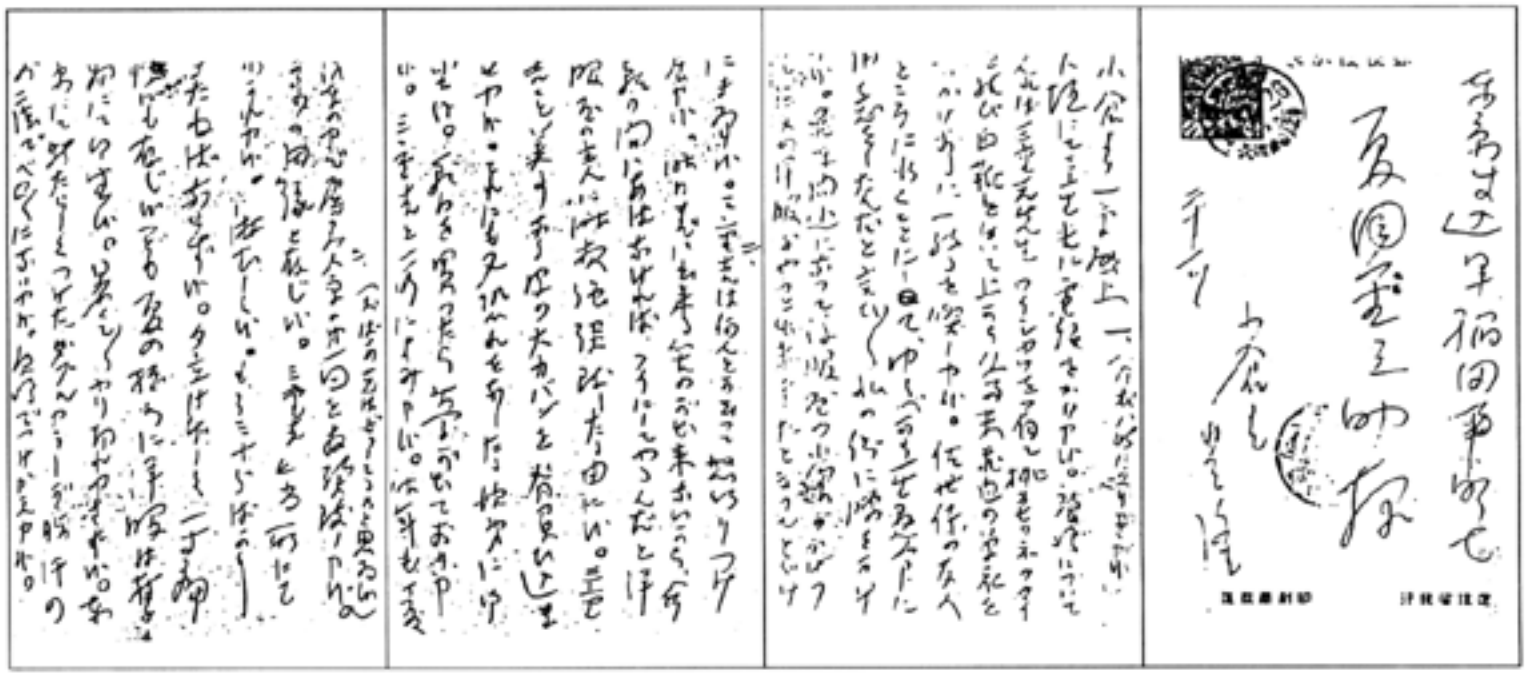

図3　小宮豊隆書簡・漱石宛（明治41年7月26日付）

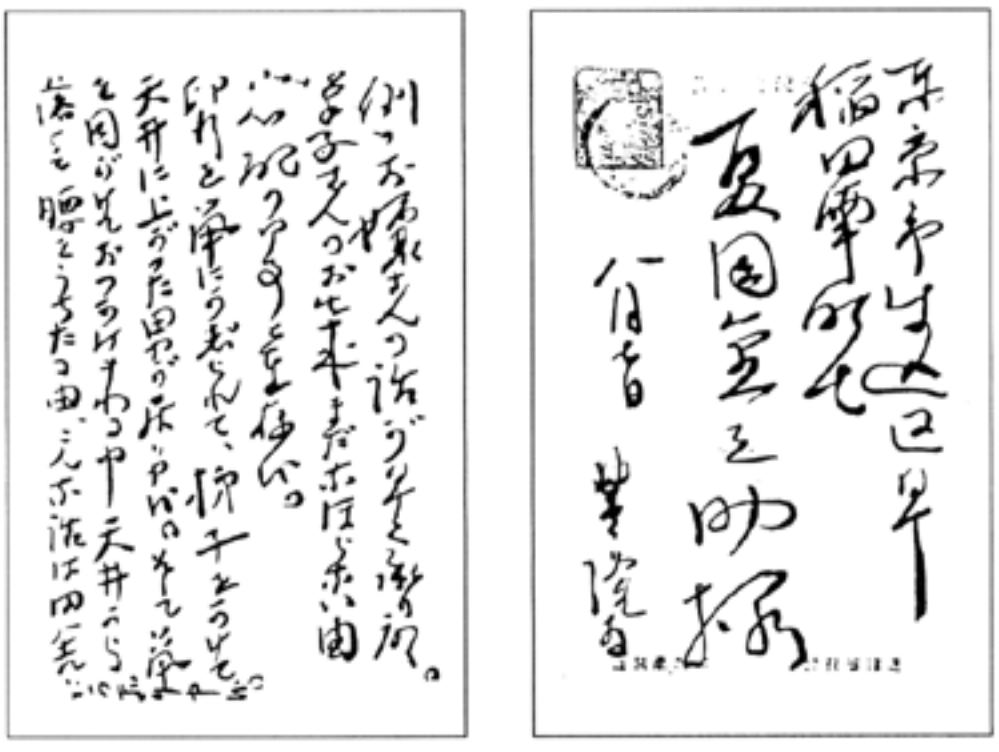

図4　小宮豊隆書簡・漱石宛（明治41年8月7日付）

平成７年度参考図書購入報告

参考図書類（文部省参考図書購入費，本学共通経費，川内地区部間共通費等）により平成７年度に購入し，本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

◆和　漢　書◆

1. 新聞に見る人物大事典　戦前編　第１～５巻
2. 甲骨金文辭典　上，下，別巻
3. 官聽刊行圖書目録　第14～17巻
4. 国立国会図書館蔵書目録　明治期，昭和23～43年（著者名索引）
5. 学術雑誌総合目録　欧文編　1994年版　第１～８巻
6. 日本著者名総目録　第１～４巻
7. 雑誌重要記事目録　第１～９巻
8. 主要雑誌記事一覧　昭和６年～10年
9. 日本会社史総覧　上，下，別巻
10. 民国時期総書目　1911年～1949年

◆洋　　書◆

1. The Oxford Encyclopedia of the Modern Islamic World. Vol. 1-4
2. Dictionary of American Biography. Vol. 1-10, Suppl.1-8
3. The British Library General Gatalogue of Printed Books, 1993 to 1994 Vol.1-27
4. Brockhaus Enzyklopädie in Vierundzwanzig Bänden. Bd.25-29
5. Meyers Neues Lexikon. Bd.1-10
6. American Men and Women of science. 1995-1996. Vol.19(1)-19(8)
7. Comprehensive Dissertation Index, Supplement 1994 Vol.1-5
8. Contemporary Authors: a Bio-bibliograph.146-148
9. The Serials Directory: an International Reference Book. 1955 Vol.1-5
10. Subject Guide to Books in Print. 1995-1996. Vol.1-5

◆その他主な継続受入資料◆

1. 国立国会図書館所蔵洋図書目録
2. 国立国会図書館国内逐次刊行物目録
3. Ulrich's International.
4. The Europa World Yearbook.
5. Commonwealth Universities Yearbook.
6. Internationale Bibliographie der Rezensionen Wissenschaftlicher Literatur.
7. International Who's Who.
8. Books in Print (Authors, Titles, Publishers, Subject Guide).
9. IBN: Index Bio-Bibliographycus Notorum.
10. Verzeichnis Lieferbarer Bücher: German Books in Print.

平成8年度大学図書館職員長期研修に参加して

情報管理課和漢書目録情報掛　内ヶ崎　洋一

平成7年度と異なり前1週間をつくば地区(図書館情報大学ほか)，後2週間を東京地区（国立オリンピック記念青少年総合センターほか）で研修を行った。

研修内容の大枠については前年度とほぼ同じでした。「総論」においては大学図書館行政・管理，そして大学図書館建築についての講義がありふだん聞く機会のない話を聞くことができた。今まで時々しか使っていなかったワークステーションの操作方法の理解が「マルチメディアワークステーションによるＵＮＩＸ入門」の実習によってさらに深まりました。全国の大学図書館では唯一の例と思われる筑波大学附属図書館のボランティア導入についても興味深く聞きました。他の講義において他大学，他機関の図書館の事例に触れることができ本学との比較ができ非常に有意義でした。

共同討議は時代を反映して電子図書館や電子メディアに関するテーマが多かったが私は「図書館をめぐる環境の変化に伴って，現在図書館員に求められている専門性と，そのために必要な研修について」をテーマとする班でグループ討議を行った。いろいろな考えの受講者による活発な意見が発表された。私が興味を持っている保存図書館，漢籍目録の整理，中国語図書の整理等についてもっと意見交換できればよかったと思いました。

施設見学は国立国会図書館等を訪問し，各施設の特徴を知ることができた。

今回の研修で強く思ったことが2つあります。「人とのであい」「人づくり」この2つです。講師及び受講者のかたがたと知り合えたことは私の財産になることでしょう。

文部省，図書館情報大学，そしてこの研修のお世話をいただいた皆さまのなみなみならぬご配慮に感謝いたします。

3週間という長い間こころよく研修に出していただいた本館の皆さま，そして東北大学附属図書館の皆さまに心より御礼申し上げます。

（うちがさき・よういち）

平成8年度ＩＬＬシステム地域講習会

平成8年度ＩＬＬシステム地域講習会は，6月20日（木）から21日（金）までの2日間の日程で，当館を会場に開催された。

本講習会は，学術情報センターで実施しているＩＬＬシステム講習会のほか，同センターと開催大学の共催で実施されるもので，「相互貸借業務担当職員に対し，ＩＬＬシステムの運用方法及び端末操作等に関する知識・技術を習得させる」ことを目的としており，5機関14名の受講者があった。

講義及び実習は，本学の講師及び実習補助者により，学術情報センターのカリキュラムに沿って「システム概説」,「端末操作・検索総論」,「複写業務の基本操作」,「貸借業務の基本操作」等の内容で実施された。

本講習会では，当館では昨年に続いての講習会ということもあり，講師及び実習補助者の本学職員にとっては若干余裕の感じられる講習会という雰囲気が見られ，講師等の熱心な指導と受講者の一生懸命さにより成功裏に終了しました。

終わりに，講習会に直接担当いただいた講師及び実習補助者を始め，ご協力いただいた館員各位に紙面を借りて謝意を表したい。

平成8年度目録システム地域講習会

平成7年度目録システム地域講習会は，7月2日（火）から4日（木）までの3日間の日程で，当館を会場に学内外から14名の受講者が参加して開催された。

本講習会は，学術情報センターで実施している目録システム講習会のほか，同センターと開催大学の共催で実施されるもので，「目録システム業務担当職員に対し，システムの運用に関する知識・技術を習得させる」ことを目的としている。講義及び実習は，学術情報センターの相原講師をはじめ本学の講師陣によりカリキュラムに沿って「目録システム概論」，「検索総論・検索技法」，「登録総論」，「図書登録実習」等の内容で実施された。

実習では，情報管理課から14台の端末機の提供を受け，講師陣のほかに和漢書，洋書両目録情報掛の方々にも実習補助者として全面的なご協力を得，突然の雷で一時中断を余儀なくされましたが，多大の成果を挙げることができました。

最後に，学術情報センターには講師の派遣，テキスト・資料の配布等種々ご配慮いただき深く感謝するとともに，講師陣，実習補助者及びご協力いただいた館員各位に紙面を借りて心からお礼申し上げます。

平成8年度NACSIS－IR地域講習会

平成8年度ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ地域講習会は，8月1日（木）から2日（金）までの2日間の日程で，青葉山地区にある東北大学大型計算機センターを会場として開催された。

本講習会は，学術情報センターで開催されているＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ講習会のほかに，各地区の大学図書館と共催で実施される地域講習会で，「代行検索担当者および情報サービス利用者に知識・技術を習得させる」ことを目的としており，東北地区の5機関から13名の受講者があった。

講義及び実習は，学術情報センターの木村優講師をはじめ本学の講師補助者によりカリキュラムに沿って「ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ紹介」，「検索コマンド」，「他データベースの検索」，「検索の考え方」等の内容で実施された。講師等の熱心な指導と受講者の真面目な受講姿勢が相俟って2日間とも充実した講習会で，受講者から感謝の意を述べた感想が寄せられた。

末筆ながら，担当された講師等の方々及びご協力いただいた館員各位に心からお礼申し上げます。

さらに，快く会場を引受けていただいた大型計算機センター及び助言，お世話くだされた同センター職員の方々に紙面を借りて衷心より感謝申し上げます。

平成８年度ＩＬＬシステム地域講習会を受講して

医学分館運用掛　鈴　木　陽　子

標記講習会が，６月20日と21日の２日間にわたり，当館本館を会場として開催された。受講者は14名，その内訳は宮城県図書館２名，福島県立医科大学１名，会津大学１名，秋田公立美術工芸短期大学１名，東北大学９名である。

講習会１日目は，当館講師により「ＩＬＬシステム概論」「複写業務の基本操作」「貸借業務の基本操作」の講義が行われた。また，端末の基本操作，目録検索，業務の基本操作についての実習も行われた。２日目は「応用操作」ということで，依頼の取り消し，謝絶，照会，クレーム等についての講義と実習が行われた。

２日間という短い期間ではあったけれども，この講習会を受講したことで，ＩＬＬシステム全般に関する知識が得られて嬉しかった。私は今年４月からＩＬＬの仕事についたが，受講前は，自分の担当作業をただこなすことで精一杯だった。現在は，隣人の端末をさりげなく（？）のぞいては，講義内容を思い返す余裕も出てきた。これからは，さらにローカルシステムとの関係などを勉強し，幅広い実務にもきちんと対応出来るようにしたい。

最後になりましたが，この講習会を担当された講師の方々，お世話して下さった関係者の方々に，心からお礼申しあげます。

（すずき・ようこ）

平成８年度目録システム地域講習会を受講して

情報管理課和漢書目録情報掛　小　松　武　彦

学術情報センターと東北大学附属図書館との共催による，今年度の標記講習会が，７月２日～７月４日の３日間の日程で，東北大学附属図書館を会場として開催された。

今回の受講者は，国立大７名，公立３名，私立大４名の計14名が参加した。

講習に先だち，東北大学附属図書館情報サービス課長の挨拶があり，講師の紹介，受講者の自己紹介があった。

一日目の講習は，学術情報センターの相原雪乃講師の「目録システム概論」「目録情報の基準Ｉ」，次いで阿部講師の「端末操作解説」，菊地講師の「検索総論・検索技法」，前田講師の「登録総論」「図書登録実習Ｉ～Ｖ」等のカリキュラムに沿った内容で講義及び実習が実施された。

講義，端末機使用の実習においても，受講者の中には，端末機操作は初心者もおり，講師の関係者の方々の丁寧，明確な指導は正に百聞は一見に如かずの指導を受け，受講者の疑問点も解明出来，又今後の課題となるものにも有利な展開を与えて頂き参加した充実感で一杯でした心より感謝申し上げます。

（こまつ・たけひこ）

平成8年度NACSIS－IR地域講習会を受講して

情報サービス課相互利用掛　小　野　元　子

標記講習会が学術情報センターと東北大学附属図書館との共催により平成8年8月1日～2日の2日間，東北大学大型計算機センターを会場として開催された。

講習に先だち，小山館長の挨拶，講師，補助者の紹介があり，その後，端末に向かいながら講義が始まった。

講習内容は，情報検索の手順，基本コマンドの使い方，応用検索，論理演算の組み立て方等の講義と端末を使っての実習である。講義は簡単明瞭かつ丁寧で初心者にも容易に理解できるものであった。講習は終始真剣な中にも和やかな雰囲気で運ばれ充実した2日間であった。

最後に，今回の講習会の関係者の方々に感謝を申し上げます。

（おの・もとこ）

会　議

◎学　内

8．6．6　T－LINES館内検討委員会

7．7　T－LINES次期システム検討委員会

7.22　平成8年度第1回附属図書館商議会

○協議事項

(1)　T－LINES次期システム検討委員会の報告について

(2)　その他

○報告事項

(1)　分館からの報告

(2)　平成8年度図書館運営費（共通経費）について

(3)　平成8年度図書館資料費の配分について

(4)　第27回国立大学図書館東北地区協議会について

(5)　第43回国立大学図書館協議会総会について

(6)　新キャンパス部局配置について

(7)　その他

8．7.26　T－LINES次期システム検討委員会

8．6　T－LINES次期システム検討委員会

◎学　外

8．7．1　外国雑誌センター館会議（於：東工大）

7．3～4　国立大学図書館協議会総会（於：横浜国大）

7.12　東北地区大学図書館協議会総会幹事会（於：東北大学）

9.17　東北地区大学図書館協議会総会幹事会（於：山形）

9.17～18　東北地区大学図書館協議会総会（於：山形）

編　集　後　記

本誌も第1巻発行から数えて20年が過ぎ，第21巻第2号を発行することになりましたが，「木這子」の索引が第1巻～第6巻までの分しか作成しておりませんでした。

このことについては，前年度の広報委員会の引き継ぎとなっていたこともあり，本号の別冊として「東北大学附属図書館木這子索引」第1巻～第20巻までを作成することになりました。

皆様のお役に立てればと，広報委員一同期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお，暑くお忙しい中，本号のためにご寄稿いただいた皆様，本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。　（佐藤）

東北大学附属図書館館報「木這子」　第21巻第2号（通巻75号）発行日　平成8年9月30日
発行人　辻　英雄　広報委員長　門田泰典
発行所　東北大学附属図書館　仙台市青葉区川内　電話　022-217-5910